

### 第3回津島市総合戦略策定委員会

日 時 平成27年12月18日(金)  
午後2時から  
場 所 津島市役所 5階 委員会室

#### 【配布資料】

資料1 津島市人口ビジョン（素案）

資料2 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

開 会

#### 次第1 議題

##### 議題1 津島市人口ビジョン（素案）について

事務局より説明

〈委員長〉

- ・人口ビジョン（案）について、ご意見があればいただきたい。

〈委員〉

- ・これから20年、30年先、日本全体を考えたとき、移民を受け入れることが必要になるのか。

〈委員長〉

- ・出生率を上げても、すぐに生産年齢人口が増えるわけではない。
- ・生産年齢人口が減ることを埋めるには、個人的には、移民の受け入れ以外にないのでは。
- ・国は、移民を受け入れない前提で、1億人を維持するために、2030年に1.08、2040年に2.07の合計特殊出生率を目指すとしている。

〈委員〉

- ・津島市は国、県より10年遅れで出生率を高めると説明があったが、市としては限界があり、政治の力を変える必要がある。

〈委員長〉

- ・出生率は、自治体の努力より国の政策によるところが大きい。
- ・2.07は難しいと思うが、国が政策を何十年かかけて実施すれば達成できるかもしれない。
- ・国の言うことが無理だからといって、現実を見て低くするべきではない。

〈委員〉

- ・各種アンケート調査に意味はあったのか。

〈委員長〉

- ・特に社会移動についての調査は意味があった。
- ・人口ビジョンを作る基礎調査となった。

〈委員〉

- ・目標値を設定した責任は、市役所にはないのか。

〈委員長〉

- ・責任があるかという点難しい。
- ・国は目安として数値を出しており、設定したのは各自治体だと言うかもしれない。
- ・大半の自治体はこの数値を使っているため、この会議が責任を持つことにはならない。

〈委員〉

- ・出生率を2.07に高めるには、国の支援が必要である。
- ・国の地方創生関連の予算は、恒久的に続くのか。
- ・出生率を実現するための施策を行うことは、津島市規模の自治体では難しいのでは。

〈委員長〉

- ・いろんな意見等を聞くと、本当にできるのか不安な部分はある。
- ・人口ビジョンとして2060年までの数字を出しており、これは実際の施策のベースになっていく人口であるが、実質的に有効性を持つのは10年から15年ではないか。
- ・その間に事情が変われば、国も見直しを行うのではないか。
- ・国が行った調査で、何の制約もない状況で希望する子どもの数から、2030年までに出生率が1.80までは高まるとされている。
- ・津島市は、国の前提より10年遅れという案を示している。
- ・いろんな施策で子どもを産み育てやすい都市としてやっていくのなら、社会移動をプラスにしても良いと思う。
- ・社会移動のマイナスをゼロにすることは、努力は必要であるが、効果は期待できるので、この想定で良いと考える。

〈委員〉

- ・人口増加の一番のターゲットはどこか考えれば、施策は行いやすい。

〈委員長〉

- ・総合戦略の看板メニューとしては、子育て支援、若い女性の転出を抑制することである。
- ・人口シミュレーションに合う形で、総合戦略に具体的な施策が考えられている。

〈委員〉

- ・総合計画との整合性は。

〈事務局〉

- ・総合計画は、市全体の施策を検討しており、総合戦略は、人口対策に焦点を絞ったものである。

〈委員〉

- ・総合計画は策定して終わりとなっており、反省しておくことが重要ではないか。

〈委員〉

- ・総合計画は10年計画で、5年で見直しを行っている。
- ・毎年進行管理をしている。

〈委員〉

- ・総合計画審議会は、検討するのみで、反省をしていない。

・行政のみで整理していても、反省していることにはならない。

〈委員〉

・検討させていただく。

〈委員〉

・日本や津島市での適正な人口というものはあるのか。

〈委員長〉

・計算上は可能であり、個人的には、日本としては1億人ぐらいではないかと思う。

〈委員〉

・どこの国も計画を立てて失敗している。

〈委員〉

・津島市の適正人口はどれくらいか。

〈委員長〉

・津島市の人口が、明日、5万人になったら大変なことになるが、そうはならない。

・徐々に減っていくことになるので、それに対応するために学校の再編や道路を使わないなどの対応をして、最終的に5万人に相応しい行政、都市となる。

〈委員〉

・津島市では、染織業がなくなって、規模の大きな下水処理場を必要なくなったことで、下水道料金が高くなってしまう。

〈委員〉

・公共料金が高くなれば、住みにくくなる。

〈委員長〉

・津島市のみが他に比べて、人口が早く落ちるということはない。

## 議題2 津島市総合戦略（素案）について

事務局より説明

〈委員〉

・名古屋市で働く人が津島市で住んでもらうために、通勤に係る電車賃を補助する制度は可能なのか。

〈委員長〉

・直接的な補助は難しいのでは。

・高架事業などを行うと、運賃に上乗せされることがあるので、鉄道整備に対する費用を市が補助すると、運賃が下がることはあるかもしれない。

〈委員〉

・津島駅を降りると活気がなく、そんな街に住みたいとは思わないのでは。

〈委員長〉

・具体的な事業が必要ではないか。

- ・案の中身の課題認識や重点戦略については、異論はないと思う。
- ・ただ、具体的な事業になると急に弱くなる。
- ・女性が転出しないためにはこういうことを行う、ということが必要である。
- ・団体、企業として手伝えること、関わり方、可能性についてご意見があれば。

〈委員〉

- ・イベントや行事は、行政が主体となるとお金がかかり、民間に委託すると安くできることもあるので、民間にやってもらうのが良いのでは。

〈委員長〉

- ・具体的な話として、子ども医療費の助成について、どれくらいまで支援を行うかは記載していない。
- ・どのあたりまで出すかは市が決めることだが、この事業を行った時に、重点戦略として掲げていることが実現できるのかと感じる。

〈委員〉

- ・歴史に関する記述がない。
- ・観光協会として行ってきた事業のほか、NPO団体も事業を行っている。
- ・行政主催の会議は、本音がぶつかる議論がなく、表面のみの議論となっている。

〈委員〉

- ・記載してある事業の中に、いくつかの課にまたがっているものがある。
- ・事業として一つで書いてあるものは窓口を一本化しないと、行政に尋ねたときにたらい回しのようなになるのでは。
- ・県などに取組みの提案等をする場合に、書類の不備等を指摘されることはあっても、「こうすれば良い。」とか「こういう提案をしてください。」といったサポートがない。
- ・こういう支援がないと、団体は動くことができない。
- ・市民は自治体にノウハウを求めている。
- ・子育てなどの施策を厚くしていくと、津島の評判は高くなる。

〈委員〉

- ・行政が足を引っ張ることもある。

〈委員〉

- ・行政と話がかみ合わないことが結構ある。
- ・「こうだからダメ。」ではなく「こうすれば良い。」という対応をしていただきたい。

〈委員長〉

- ・行政は、事業の種類によって部署が分かれている。
- ・企業は、お客さんの種類によって部署が分かれており、そのお客さんの声は、その窓口がすべてやっている。
- ・組織のあり方として、市民に合わせた、市民が使いやすい、市民と一緒にやりやすい組織に変えていくことも価値がある。

〈委員〉

- ・官庁には多くの部署があり、職員はそれをすべて把握していない。
- ・市民に対応したとき、間違ったことを言うてはいけないということで担当課が対応する。

- ・すぐには改善できないが、コーディネーターのような役割を作るなどの方法はあるのではないか。

〈委員〉

- ・それが解決すると、住みやすくなるのでは。
- ・いろいろな施策の項目よりも、行政を変える方が重要かもしれない。

〈委員〉

- ・津島公共職業安定所に求職に来る人は、どの年齢層が多いのか。

〈委員〉

- ・20歳代後半から40歳代前半が一番少なく、60歳代前半が多い。
- ・若い女性が働きやすいことも大事であるが、高齢者の方も継続して働ける環境、地域づくりは大切。
- ・働く意欲のある高齢者、障がい者も多く、全員参加型の社会が理想である。
- ・働く意欲のある高齢者は、シルバー人材センターの仕事やNPOの手助けなどが考えられる。
- ・若者や女性も大切であるが、全員でまちづくりをすることを考える必要がある。

〈委員〉

- ・シルバー人材センターの枠を外せないか。
- ・「おもてなしコンシェルジュ人材育成事業」に百名の方が参加されたが、まちづくりに熱心な方たちであった。
- ・そういった人たちもシルバー人材センターに入っただいて、おもてなしコンシェルジュをやっただけでシステムなど、シルバー人材センターを今に合った形に変えては。

〈委員〉

- ・高齢者は増えているが、シルバー人材センターの会員は増えていない。
- ・危機感を持っているので、市から発信すべきと考えている。

〈委員〉

- ・津島公共職業安定所の求人数は多いのか、少ないのか。

〈委員〉

- ・有効求人倍率は1.27であり、愛知県全体では1.55、国の平均は1.24である。
- ・年齢階層では、ばらつきがある。
- ・津島公共職業安定所管内は、16のハローワークのうち、5から7番目、真ん中より少し上に位置している。

〈委員〉

- ・海部地域30万人と考えて、愛知県で考えるとどうか。

〈委員〉

- ・愛知県を名古屋、尾張、西三河、東三河の4ブロックに分けると、大きな変動があるのは西三河地域。
- ・名古屋、尾張は、大きな変動がなく安定している。
- ・春日井市や小牧市などの尾張の北や犬山線沿いは求人が高い。
- ・津島市から犬山市方面へ出ようと思うと、いったん名古屋へ出る必要があり不便である。

- ・尾張の北には中堅企業が多くあり、安定しているのでは。
- ・尾張の北に求職があり、津島市から通うとしても1時間ほどかかるのはどうか。

〈委員〉

- ・尾張の北部は、国道19号線、41号線、高速道路があり、41号沿線の地域でリーマンショックのダメージが大きかった。
- ・海部地域への影響は少なかった。
- ・西三河は惨憺たる状況だった。
- ・海部津島は比較的安定した地域であり、そこに労働力があり、働きやすい、住みやすいとなれば良いのでは。
- ・この地域は、おそらく離職率は低い。
- ・名古屋、尾張地域は、安定雇用が続いている。

〈委員〉

- ・観光では、広域観光として周りの市町村と一つにならないと滞在型の観光にはならない。
- ・もっと広域的に考えるべきでは。

〈委員長〉

- ・世の中は広域行政の流れであるが、一つは、観光のみでなく、防災、環境など近隣と一つになっていかないとうまくいかない行政課題がある。
- ・もう一つは財政的なことで、お金がないので一緒に共有できる行政課題がある。
- ・愛知県の市町村の財政力は、全国平均では良い。
- ・津島市も他県に比べれば悪くはない。
- ・岐阜県では広域観光が必要であり、高山、白川郷、下呂などがセットで滞在型となる。
- ・津島市は、都市観光ということで、名古屋から古い街並みを見に来るなどのタイプで、市で完結する。
- ・津島市の場合は、名古屋と手を組むことになると思うが、滞在は名古屋になる。
- ・津島市の観光は、日帰りで遊びに来てもらうタイプを引き出すことでは。

〈委員〉

- ・周りの市町村からは、津島市は歴史があり、津島神社という資源があるので、津島市がリーダーシップをとってほしいと言われている。
- ・行政が本気なら、私たちも事業をやっていききたい。
- ・やり方の問題が一番重要。

〈委員〉

- ・名古屋へ通勤している人の利便性を高めて居住してもらうことが重要。
- ・駅まで車で走っている方の利便性を高める方法を考えるとは。

〈委員〉

- ・子育ても、預かる場所があって初めてアピールできる。

〈委員長〉

- ・一番のカギは津島駅をどうするか。
- ・津島市の強みは拠点性である。
- ・名古屋、一宮、南の方へ行くのにも鉄道があり、通勤、通学がしやすい。

- ・名古屋、一宮など高校の選択肢も多い。
- ・通勤、通学の町として評価される。
- ・もう一つの強みは医療。
- ・市民病院があり、診療所の数もある。
- ・分娩が難しいという問題もない。
- ・弱みは、女性の人口が減っていること。
- ・名古屋に通勤しやすい環境を活かして、駅前あたりに住んでもらう。
- ・または、遠くから津島駅に来てもらって名古屋へ通勤してもらおう。
- ・駅で子どもを預かって、市内の保育所へ送迎するサービスがあってもいいのでは。
- ・子育て、駅の機能が向上すると、名古屋への通勤の利便性も高まる。
- ・女性が働く、勤めるとしても、地元魅力的な企業がない。
- ・起業して、やりたい仕事を実現できるような場が市の中心にあれば、他市と差別化できるのではないかな。
- ・津島駅をどう使うか、何ができるのかを考える必要もある。
- ・お金がかかるため行政の施策として選択されるかどうかは分からないが、この場はアイデアを出す場である。

#### 〈委員〉

- ・岐阜から名古屋までは何分かかかるのか。

#### 〈委員長〉

- ・18分、470円。西岐阜からは22分570円。
- ・岐阜市は、駅の正面に高層マンションが建っており、岐阜あたりの方が自分の子どもに住まわせるために買っていた。
- ・最近、山口市や北方町などの地域の方の子どもたちが住み、名古屋に通っている。
- ・子どもを預ける時、祖父母の顔を見たいときは、車で20分ほどで実家に行く。
- ・津島市は、これに近い考えができるのでは。
- ・実家は近隣市町村にあり、子どもが駅の近くに住むという拠点になるのではないかな。
- ・お金はかかるが、鉄道事業者にとって悪いことではなく、鉄道に乗ってくれることにもなる。
- ・魅力的な都市イメージを形成するためには、広報だけでは弱い。
- ・都市イメージは、看板になるような何か、旗印になるような何かが必要である。
- ・子ども医療費に関しては、ネガティブなイメージになっており、住みやすさにマイナスイメージが加わってしまっている。
- ・最低限、近隣市に合わせるなど、ネガティブなイメージを変えるようなインパクトがある看板メニューが必要。
- ・すべてに勝つのではなく、一つ魅力的なものを出すとネガティブイメージは変わる。

## 次第 2 その他

特になし

(事務局より)

第4回津島市総合戦略策定委員会は、1月22日(金)の10:00～開催する。